

## 第6章 生徒指導の進め方

### 第4節 学級担任・ホームルーム担任の指導(生徒指導提要P138～P142)

#### 1 生徒指導における学級担任・ホームルーム担任の立場

生徒指導を進めるに当たっては、学級・ホームルームに所属する児童生徒と接触する機会に多く恵まれ、一人一人の児童生徒の性格、能力、適性、家庭環境、将来の進路希望などをよく理解するとともに、学級・ホームルームや学校における人間関係など多くの情報を最もよく把握している学級担任・ホームルーム担任の教員の果たす役割が大きいと言えます。

#### 2 生徒指導の基盤としての学級経営・ホームルーム経営

学級・ホームルームの場を中心として児童生徒の生活が営まれ、児童生徒の成長発達は進められていくことから、学級・ホームルームという学校生活の場面は生徒指導を進める上でも基本となる生活場面と言えます。環境が人を作ると言われているように、教室の整備状況によって、そこで学習し生活する児童生徒の情緒の安定も増していく意味において、教室環境の整備は学級経営・ホームルーム経営の一つとして考えることができます。

#### 3 学級経営・ホームルーム経営と生徒指導の進め方

##### 【児童生徒理解の深化】

- 学級・ホームルームには多様な児童生徒がいることを前提に、学級・ホームルームでの児童生徒との人間的な触れ合い、きめ細かい観察や面接、保護者との対話を深め、一人一人の児童生徒を客観的かつ総合的に理解していくことが大切です。(児童生徒理解については、第3章でその詳細が述べられています。)
- 他の教職員との情報交換や連携を深め、児童生徒に関する幅広い情報の収集と多面的な理解に努めることが大事です。

##### 【学級集団・ホームルーム集団の人間関係づくり】

- 好ましい人間関係を基礎に、児童生徒が豊かな集団生活を営む学級やホームルームの教育的環境を形成するとともに、児童生徒のコミュニケーション能力を高め、開かれた人間関係づくりを進めることが大事です。

##### 【学級・ホームルームにおける生徒指導の取組】

- ① 学級担任・ホームルーム担任が行う生徒指導の基本
  - ・学校においては日常の問題行動からしっかりと注意するなど、その行為の意味やそれがもたらす結果や責任などを理解させる毅然とした指導が大切であることから、学校全体の基本的な指導方針の下、学級・ホームルームにおいても児童生徒の発達の段階を踏まえて生徒指導の方針を明確に示し、児童生徒や保護者に対して「社会の一員」としての責任と義務の大切さを伝えていくことが必要です。
  - ・問題が起こる前に、日ごろから児童生徒の自己理解や社会認識を深め、自己指導能力を培う生徒指導の充実を図ることが必要です。
- ② 学級担任・ホームルーム担任が行う教育相談
  - ・教育相談の機会を計画的かつ随時持つことにより、児童生徒理解を一層深め、様々な問題への早期の発見や対応も可能になります。
  - ・学校の教職員の連携はもとより、スクールカウンセラーなどの専門家や外部の専門機関との連携を図ることが必要です。
- ③ 学級担任・ホームルーム担任が行う生徒指導
  - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校のそれぞれを通して、児童生徒の発達の段階を踏まえて社会性をはぐくむ教育活動を進めていくことが大切です。
  - ・児童生徒や学校・地域の実態に応じ、体験活動などを活用した人間関係づくり、社会的スキルの習得などに取り組むことも大切です。

#### 4 開かれた学級経営・ホームルーム経営の推進

多様な児童生徒の個性を伸ばし、児童生徒一人一人の健全な成長発達を促すためには、指導する担任が開かれた心を持ち、学級経営・ホームルーム経営に取り組むことが必要です。生徒指導は、全教職員の共通理解を図り、学校全体として協力して進めることが大切であり、特に、家庭や地域社会との連携では、保護者との間で、児童生徒理解、児童生徒に対する指導の在り方について共通理解を深めることが大切です。

※生徒指導提要は、平成22年3月に文部科学省から発行され、各学校に配布されています。